

## ディベート 議論の練習のためのゲームです。

1. 1つの論題について話し合う
2. 肯定側否定側に機械的に分けられる
3. 一定のルールに従う
4. 証明された議論を戦わせる
5. 審判によって判定が下される

特定非営利活動法人全国教室ディベート連盟HPより

## ディベートの効能

1. 問題意識を持つようになる。
2. 自分の意見を持つようになる。
3. 情報を選択し、整理する能力が身に付く。
4. 論理的にものを考えるようになる。
5. 相手（他人）の立場に立って考えることができるようになる。
6. 幅の広いものの考え方、見方をするようになる。
7. 他者の発言を注意深く聞くようになる。
8. 話す能力が向上する。
9. 相手の発言にすばやく対応する能力が身に付く。
10. 主体的な行動力が身に付く。
11. 協調性を養うことができる。

Wikipedia ディベートより

## 論 題

### ▶ 価値論題：ある事柄が良いか悪いかを扱う

- 援助交際は悪である
- A社とB社では、どちらがエクセレントカンパニーか

### ▶ 事実論題：ある事柄が有るか無いかを扱う

- 200X年までに石油資源は枯渇する
- 邪馬台国は北九州にあった

### ▶ 政策論題：ある事柄が行われるべきか行われざるべきかを扱う

- 日本は消費税を20%にすべきである。是か非か
- 日本はギャンブル税を導入すべし。是か非か

Wikipedia ディベートより

## 構 成

### 立論

自説を論理つけて説明し、これから行うディベートの論点と論拠を明確にするパート。

### 尋問（質問）

相手の立論に対しての質疑応答のパート。  
目的は、相手の立論の内容で不明確な点があれば、それを明確にすること。

### 反駁（反論）

立論の中で出てきた論点にそって、議論を深めるパート。相手の議論に対して反駁しない場合は、認めたことになる。

### フォーマットの例（競技ディバートの場合）

各スピーチでの持ち時間は、ステージごとに決められています。

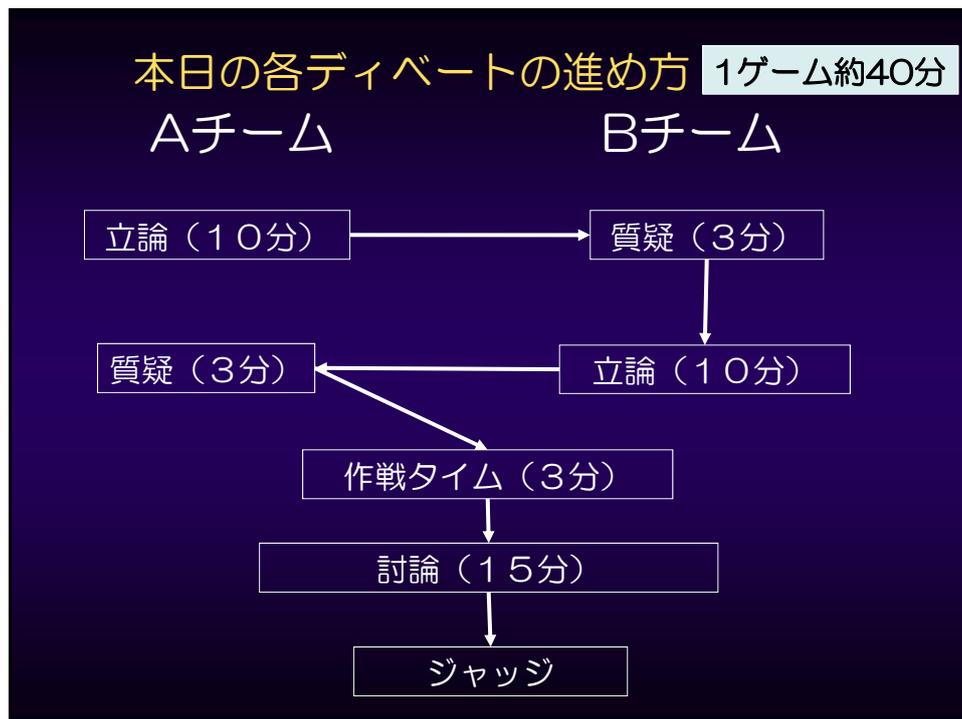
・スピーチの順番は以下の通り。



・準備時間が、各スピーチの前に1分ずつ（肯定一駁・否定二駁・肯定二駁の前は2分）与えられる。

### ディバートの基本ルール

1. 非礼行為は慎まなければならない
2. 主張をジャッジに伝えなければならない
3. 時間を守らなければならない
4. 主張には根拠がなければならない
5. 相手の主張に反論しなければならない
6. 反駁で新しい議論を持ち出してはならない



## Case 1

- ・ 現在63歳、59歳時に左乳癌（広範なDCISを伴う浸潤癌）で乳房切除術施行（Bt+SLNB）。
- ・ 病理結果：invasive ductal carcinoma, IIa1, t=15x8mm, HG:3, n:0/1 (SLN), ER:0, PgR:0, HER2:3+, Ly(-), v(-)。
- ・ 術後AC x 4cycle施行（Hereceptin保険適応なし）
- ・ 術後2年で、肝転移（4cm）出現。
- ・ Herceptin + weekly paclitaxelを開始して3カ月でCRとなる。6カ月まで同治療継続した後に、Herceptin単剤に変更して、2年間CRが継続中である（PET異常なし、腫瘍マーカー正常）。
- ・ Herceptinを継続するかどうか本人も迷っている（金銭的な面もあり）

A: Herceptin 継続

vs

B: Herceptin 中止

## Case 2

- ・ 58歳、検診でamorphous, clustered 石灰化を指摘。
- ・ ステレオガイド下マンモトーム生検でDCISと診断。
- ・ 事前のMRIで限局性との判断で手術はBpのみ施行。
- ・ 病理結果：非浸潤性乳管癌、Van-Nuys:2, ER(+), PgR(+), HER2:0, 断端陰性
- ・ 術後治療は？

C:RT+TAM

vs

D:RTのみ

## Case 3

- ・ 46歳閉経前(未婚、子供なし), T=3.5cm, N(-),
- ・ 本人は乳房喪失は可能な限り避けたいと思っている。
- ・ 針生検施行：invasive ductal carcinoma, Ila1, ER:8, PgR:4 HER2:0
- ・ どちらの治療法を勧めますか？

D

術前化学療法→手術  
(可能なら温存)

vs

B

乳房切除術  
+ 同時再建

## Case 4

- 56歳閉経後。乳頭浸潤を認める3.5cmの腫瘍あり。  
CNBにて浸潤性乳管癌、ER8, PgR8, HER2(1+), G1。  
N(-)であったため、治療前センチネルリンパ節生検施行したところ、n(+)(4/4)であった。4ヶ月後に息子の結婚式を控えており、脱毛のない術前ホルモン療法を強く希望されたため、AI6ヶ月投与。術後に化学療法を行うことに同意されていた。手術(Bt+AX)施行。  
pCR(DCISのみ残存)、n(-)(0/12)。

C  
ホルモン療法のみ

VS

A  
化学療法→ホルモン療法